

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471100448		
法人名	医療法人 立清会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム清流荘(1ユニット)		
所在地	大分県宇佐市大字山本1658		
自己評価作成日	令和1年8月23日	評価結果市町村受理日	令和元年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和元年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○自宅で過ごすのと同じような雰囲気の中で1人1人が笑顔で生活できる場になるような支援を心掛けています。
 ○日々の生活の中でご自身でできることに着目して、自信を持って生活できるよう支援していきます。
 ○ご家族様には面会時に日々の変化をお伝えしたり、事業所便りでホーム内の様子を知って頂くことで信頼関係を築けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・介護計画は各担当者が日ごろのかかわりや家族との会話の中でモニタリングを行い、ケアプランの案を出して、全職員で検討しながら作っている。
 ・地域の行事には、法人全体で地域の一員となって協力している。
 ・利用者の中から要望があり、おせち料理やおやつ作りが楽しみとなっていて、出来ることを出来るときに支援することで達成感が得られていて、その人らしい支援が来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目のつく場所に理念をかかげ、介護の現場で日常的に実践できるよう、また常時理念に沿った入居者への対応を心掛けている。	理念は、家族や地域の人にもわかりやすく、利用者や家族にもぬくもりを感じてもらえるよう心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度初めてホームでの「お接待」を出し、家族や地域の人をお招きした。夏の盆踊りでも地域の方々と交流が図れるよう努めている。	お接待には、法人内の病院の外来で来た人、デイサービス利用者、老健の入所者を中心に来てくれた。法人内の盆踊りにもたくさんの地域の方の参加がある。中学生の職場体験やボランティアも積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏のボランティアや中学生の職場体験の受け入れ、「読み聞かせ」や「オカリナ演奏」のボランティアのお願いなどしている。こういった場を通して認知症の理解や支援の方法をアドバイスできるように努めたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	研修、利用者の状況、行事やボランティアの状況等報告し、意見交換を行っている。クリスマスのレクに参加して頂いたり、入居者と交流の茶話会を取り入れたりしてホームの様子を見て頂けるよう取り組んでいる。	運営推進会議の参加者から認知症に関する質問や意見が出る。参加者とクリスマス会や茶話会を催し、利用者との交流もある。また年に1回は避難訓練にも参加してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険課の方は運営推進会議に参加頂く他、電話や訪問で状況の報告や相談を行っている。	市担当者とは電話や訪問をして制度やわからないことについて、相談やアドバイスももらっている。他事業所との交流についても話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を含めた高齢者の人権の研修に参加したり、ホーム内で研修を行う他、毎月のミーティングでは「身体的拘束適正化に向けての取り組み」の項目を入れ、話し合えるようにしている。	夜間のみベットの柵が必要であった人が柵を付ける時間を少しづつ短くしながら、今は夜間も必要としなくなった。見守りに重点を置き、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修会に参加したり、入居者に対して人としての尊厳を守り温かい介護を提供できるよう努めている。		

事業者名：認知症高齢者グループホーム清流荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時に権利擁護の研修を行い、また施設内外の研修に参加したものは全員にそれを伝えることで、意識の共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必要書類を基に入退居についての説明を行っている。改定の際は書類にて連絡し、不安や疑問点がある時はすぐに相談できるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の変化に気付き、利用者の要望をスタッフで周知できるようにミーティングや申送りノートを活用している。家族来荘時は状況報告や面談を行い、要望等聞く機会を作るよう努めている。	家族からは面会時や電話で意見や要望を聞くようにしている。利用者の中からおせち料理を作りたいとの要望があり、検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議等で職員の意見や要望を聞く様にしている。随時コミュニケーションを図ることで相談しやすい環境を作るよう努めている。	休暇や研修の要望は受け入れられ費用や旅費も事業所が負担している。また、職員から夜間のセンサーや明かりが必要との要望があり取り入れられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や業務内容等調整できることは取り入れ、働きやすい環境づくりを目指している。職員1人1人の状況を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修機会の確保に努め、職員1人1人の力量に応じ、積極的に研修に参加することでレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症の研修会や市の企画する研修には積極的に参加し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を家族と十分にお話し、環境の変化に対応できるよう配慮している。アセスメント表を活用し、多方面からサポートできるように信頼できる関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはできる限り家族の立ちあいをお願いし、ご本人とご家族の要望や思いを確認している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の必要とする支援を見極め多方面からの支援内容を検討する。また内容が変化した際は情報共有することで対応するよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見慣れた顔、見慣れた環境になって頂けるよう信頼関係を築き、家庭的な雰囲気の中で安心して生活して頂けるよう留意している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前入居時には状況を説明し家族や地域と共に生活できるよう理解して頂く。面会できないご家族には電話での報告や便り等で施設との関係が途切れないように努める。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1人1人の生活環境を尊重し、知人との交流、家族との外食、墓参り、外泊等さまざまな場を提供できるよう努めている。	定期的知人や友人の訪問がある。馴染みの場所へは家族の協力を得ながら支援できている。利用者と自宅の果実を摘みに出かけた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を見守りながら観察し、利用者同士が関われるよう配慮している。トラブルにより不快な思いをしないよう心がけ対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも相談があった場合はできる限りの支援を心掛けていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で出た言葉や態度等から希望、意向を引き出せるようなケアを心掛けている。	日ごろのかかわりの中での気づきを職員同士で共有し、思いをどう受け止め、把握するかを話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を念頭に入れた支援を行っている。家族や本人に協力して頂き、今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活でご本人ができることは委ねるようにしている。また心身の状態を観察し、状態に応じて対応するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族、関係者、職員の意見を取り入れその人らしく暮らせるような介護計画を作成している。	1か月に1回モニタリングを行い、職員を担制にしてケアプランの案を出し、職員、家族とで検討してる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中に状態や状況を記録し、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況、変化やニーズに合わせて柔軟な支援と対応に取り組んでいる。		

事業者名：認知症高齢者グループホーム清流荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人主催の盆踊りへの参加、小学生訪問による交流会への参加、ボランティアの訪問等で交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人と相談の上かかりつけ医や専門医の受診を行い適切な医療が受けられるように支援している。	法人内の病院がかかりつけ医である人が多い。専門医を受診する時は家族が付き添っているが、緊急時には職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週間報告書を毎日記入し状態報告をしている。変更や指示があれば職員間で情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急入院時に備え情報提供シートを常に用意している。病院関係者や家族と連絡を密にとり、情報交換や相談をしながら現状把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応について説明している。その後も状態に応じて思いを聴く様になっている。医療処置については、ご家族主治医から経過や状態を聞き、方針や内容を決めている。	現在看取りはしていないが、重度化した場合は家族と充分話し合い、家族の希望に沿った病院や施設などの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職場会議で研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、併設されている老健と共に夜間の火災を想定した避難訓練を実施し、また毎月、ホーム内で避難訓練や防災の勉強会を実施している。	東京消防庁の資料をもとに勉強会を実施している。毎月1回遊び感覚で防災訓練を実施し、ベルが鳴ると感覚的に移動できるようにしている。その後毎回反省会を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目の位置を合わせお話を聞く様にしている。身体に影響することは情報共有し、個人的なお話を伺った時はその場限りの話で留めることもある。	名前の呼び方は家族の意向を踏まえて決めている。入浴や排泄の介助も一人ひとり誇りを尊重しながら支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に思いや希望を聞ける環境を作り支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活ペースを守りつつ、悩みや希望を聞き支援している。上手く伝えられない方には表情や仕草で察するよう気を配る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時起床時等に一緒に選んだり、声をかけて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態を変えたり食器を変えたり変化をつけて楽しみながら支援している。	3食とも法人内の厨房で作られ、盛り付けや配膳は利用者と一緒にしている。同じものを職員も一緒に食べながら見守りしている。食べる姿勢も考え、背もたれや座布団を利用し、その人に合う支援をしている。利用者から要望があれば給食委員会で伝えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分チェック等を行っている。声掛けしたり、個人の状態や力に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操、食事時の状態や飲み込みを観察したり、毎食後の口腔ケアをしている。		

事業者名：認知症高齢者グループホーム清流荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の力や排泄のパターンを把握して、声掛けしたり、誘導し、失敗の軽減に努めている。	ほとんどの人は自分でトイレに行ったりポータブルトイレを利用している。夜間は転倒のリスクを考え、センサーマットをして利用している人もいる。リハビリパンツから布パンツに変わった人もあり、自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂ってもらい軽い運動を行い、便秘解消に努めている。医師の指示のもと下剤等服用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っており、その際ゆっくりと入浴が行えるように心がけている。	好みの順番を考慮し、体調を見ながら入浴を支援している。希望によってはシャワーや清拭の時もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を充実させ生活リズムを整えられるように努めている。眠れないときはゆっくり話を聞くなどして安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬について理解し医師の指示のもとに支援している。内服薬の変更があった際には心身状態や症状の変化などの観察、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や力を活かして食器洗いや洗濯物たたみ等役割を持って生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の買い物に声をかけたり、自宅の果実の収穫に出かけたこともある。家族の方が一緒に外出される人もおり、全体としては季節ごとに計画を立てて外出している。	気候が良ければ出来るだけ戸外に出て散歩をしたり買い物に出かける。日常的に、近所の金魚にエサをやりに行くなど、目的をもって出かけるときもある。家族の協力で外食や外泊も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望、能力に応じお金の管理をして頂いている。所持されている入居者の居室に入居する際は十分注意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物等届いた時は自室へ持参し、場合により代読したり入居者ご家族が来荘するまで預かることもある。電話は希望に応じ取り次ぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調整には常に気を配っている。ホール内は季節を感じて頂けるよう花やタペストリーなどの飾り付けをしている。行事の時に撮った写真など掲示し思い出を振り返れるようにしている。	リビングの家具の配置が家庭にいるように考えられている。冷蔵庫や、食器棚、流し台に囲まれて食事出来る風景はなごみを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の交流を大切にし、フロア内のテーブルや椅子などの位置等には気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に合わせ家具やベッドの配置を決めている。ご家族に使い慣れた物や服、写真などを持ってきて頂き、居心地のよい空間になるよう配慮している。プライバシーを守る工夫もしている。	居室には趣味のさしこの作品が掲示されていたり、家族の写真、自分で書いた書などが貼られ、それぞれ個性のある部屋となっている。机やいすなど使い慣れた家具も置かれ、居心地の良い自室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内やトイレ、浴室には手すりを設置し安全に移動できるよう配慮している。自分のできる方には必要備品をわかりやすい所に置くなど生活環境を整えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471100448		
法人名	医療法人 立清会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム清流荘(2ユニット)		
所在地	大分県宇佐市大字山本1658		
自己評価作成日	令和1年8月23日	評価結果市町村受理日	令和元年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和元年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○自宅で過ごすのと同じような雰囲気の中で1人1人が笑顔で生活できる場になるような支援を心掛けています。
○日々の生活の中でご自身でできることに着目して、自信を持って生活できるよう支援していきます。
○ご家族様には面会時に日々の変化をお伝えしたり、事業所便りでホーム内の様子を知って頂くことで信頼関係を築けるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【認知症高齢者グループホーム清流荘(1ユニット)に記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目のつく場所に理念をかかげ、介護の現場で日常的に実践できるよう、また常時理念に沿った入居者への対応を心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度初めてホームでの「お接待」を出し、家族や地域の人をお招きした。夏の盆踊りでも地域の方々と交流が図れるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏のボランティアや中学生の職場体験の受け入れ、「読み聞かせ」や「オカリナ演奏」のボランティアのお願いなどしている。こういった場を通して認知症の理解や支援の方法をアドバイスできるように努めたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	研修、利用者の状況、行事やボランティアの状況等報告し、意見交換を行っている。クリスマスのレクに参加して頂いたり、入居者と交流の茶話会を取り入れたりしてホームの様子を見て頂けるよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険課の方は運営推進会議に参加頂く他、電話や訪問で状況の報告や相談を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を含めた高齢者の人権の研修に参加したり、ホーム内で研修を行う他、毎月のミーティングでは「身体的拘束適正化に向けての取り組み」の項目を入れ、話し合えるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修会に参加したり、入居者に対して人としての尊厳を守り温かい介護を提供できるよう努めている。		

事業者名：認知所高齢者グループホーム清流荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時に権利擁護の研修を行い、また施設内外の研修に参加したものは全員にそれを伝えることで、意識の共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必要書類を基に入退居についての説明を行っている。改定の際は書類にて連絡し、不安や疑問点がある時はすぐに相談できるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の変化に気付き、利用者の要望をスタッフで周知できるようにミーティングや申送りノートを活用している。家族来荘時は状況報告や面談を行い、要望等聞く機会を作るよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場会議等で職員の意見や要望を聞く様にしている。随時コミュニケーションを図ることで相談しやすい環境を作るよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や業務内容等調整できることは取り入れ、働きやすい環境づくりを目指している。職員1人1人の状況を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修機会の確保に努め、職員1人1人の力量に応じ、積極的に研修に参加することでレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症の研修会や市の企画する研修には積極的に参加し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報を家族と十分にお話し、環境の変化に対応できるよう配慮している。アセスメント表を活用し、多方面からサポートできるように信頼できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはできる限り家族の立ちあいをお願いし、ご本人とご家族の要望や思いを確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の必要とする支援を見極め多方面からの支援内容を検討する。また内容が変化した際は情報共有することで対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見慣れた顔、見慣れた環境になって頂けるよう信頼関係を築き、家庭的な雰囲気の中で安心して生活して頂けるよう留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前入居時には状況を説明し家族や地域と共に生活できるよう理解して頂く。面会できないご家族には電話での報告や便り等で施設との関係が途切れないように努める。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	1人1人の生活環境を尊重し、知人との交流、家族との外食、墓参り、外泊等さまざまな場を提供できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を見守りながら観察し、利用者同士が関わられるよう配慮している。トラブルにより不快な思いをしないよう心がけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも相談があった場合はできる限りの支援を心掛けていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で出た言葉や態度等から希望、意向を引き出せるようなケアを心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を念頭に入れた支援を行っている。家族や本人に協力して頂き、今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活でご本人ができることは委ねるようにしている。また心身の状態を観察し、状態に応じて対応するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族、関係者、職員の意見を取り入れその人らしく暮らせるような介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中に状態や状況を記録し、職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況、変化やニーズに合わせて柔軟な支援と対応に取り組んでいる。		

事業者名：認知所高齢者グループホーム清流荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人主催の盆踊りへの参加、小学生訪問による交流会への参加、ボランティアの訪問等で交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人と相談の上かかりつけ医や専門医の受診を行い適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週間報告書を毎日記入し状態報告をしている。変更や指示があれば職員間で情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急入院時に備え情報提供シートを常に用意している。病院関係者や家族と連絡を密にとり、情報交換や相談をしながら現状把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応について説明している。その後も状態に応じて思いを聴く様にしている。医療処置については、ご家族主治医から経過や状態を聞き、方針や内容を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職場会議で研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、併設されている老健と共に夜間の火災を想定した避難訓練を実施し、また毎月、ホーム内で避難訓練や防災の勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目の位置を合わせお話を聞く様にしている。身体に影響することは情報共有し、個人的なお話を伺った時はその場限りの話で留めることもある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に思いや希望を聞ける環境を作り支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活ペースを守りつつ、悩みや希望を聞き支援している。上手く伝えられない方には表情や仕草で察するよう気を配る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時起床時等に一緒に選んだり、声をかけて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態を変えたり食器を変えたり変化をつけて楽しみながら支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分チェック等を行っている。声掛けしたり、個人の状態や力に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操、食事時の状態や飲み込みを観察したり、毎食後の口腔ケアをしている。		

事業者名：認知所高齢者グループホーム清流荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の力や排泄のパターンを把握して、声掛けしたり、誘導し、失敗の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂ってもらい軽い運動を行い、便秘解消に努めている。医師の指示のもと下剤等服用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っており、その際ゆっくりと入浴が行えるように心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を充実させ生活リズムを整えられるように努めている。眠れないときはゆっくり話を聞くなどして安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬について理解し医師の指示のもとに支援している。内服薬の変更があった際には心身状態や症状の変化などの観察、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や力を活かして食器洗いや洗濯物たたみ等役割を持って生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の買い物に声をかけたり、自宅の果実の収穫に出かけたこともある。家族の方が一緒に外出される人もおり、全体としては季節ごとに計画を立てて外出している。		

事業者名：認知所高齢者グループホーム清流荘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望、能力に応じお金の管理をして頂いている。所持されている入居者の居室に入居する際は十分注意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便物等届いた時は自室へ持参し、場合により代読したり入居者ご家族が来荘するまで預かることもある。電話は希望に応じ取り次ぎしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調整には常に気を配っている。ホール内は季節を感じて頂けるよう花やタペストリーなどの飾り付けをしている。行事の時に撮った写真など掲示し思い出を振り返れるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の交流を大切にし、フロア内のテーブルや椅子などの位置等には気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に合わせ家具やベッドの配置を決めている。ご家族に使い慣れた物や服、写真などを持ってきて頂き、居心地のよい空間になるよう配慮している。プライバシーを守れる工夫もしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内やトイレ、浴室には手すりを設置し安全に移動できるよう配慮している。自分でできる方には必要備品をわかりやすい所に置くなど生活環境を整えている。		